

## 第2節 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

### 1 快適な都市空間の形成

#### 現状と課題

- ・渋滞対策については、これまでの取組により緩和が図られてきたものの、平成25年1月に発表された「地域の主要渋滞箇所\*19)」によると、大分都市圏をはじめとして、慢性的な渋滞が生じている箇所が依然として多い状況です。
- ・都市部の電柱類が景観を阻害しているとともに、大規模地震時において倒壊による幹線道路の閉塞が懸念されます。
- ・都市の顔となる道路において、歩道が無い、段差がある、街路樹・街路灯等が不統一など快適な都市空間として質が不十分な箇所も多い状況です。

市町村	主要渋滞箇所数
	大分市
別府市	14
中津市	10
その他	23
合計	147

大分県内の主要渋滞箇所数  
(H25年1月発表)



湯けむり景観を阻害する電柱類  
(国道500号：別府市鉄輪)



損傷が激しい歩道  
(国道197号：大分市都町付近)

- ・都市公園は、美しく風格のある都市や地域の形成、スポーツ・住民のレクリエーション・自然とのふれあいの場などとして多様な役割を担っています。



サッカーキリンカップ開催 約3万5千人観戦 (大分スポーツ公園：大分市)



自然体験や環境学習として公園を利用  
(大分スポーツ公園：大分市)

#### これまでの成果

- ・大分駅付近連続立体交差事業とあわせて、土地区画整理事業を行うことにより、県都大分市の玄関口にふさわしい都市空間が大分駅周辺に形成され、土地の有効活用が促進されました。

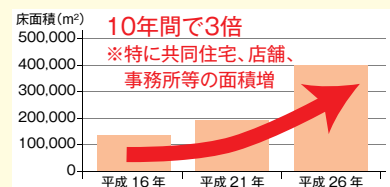
H20.8……JR 豊肥本線・久大本線高架開業

H24.3……JR 日豊本線高架開業



新たに生まれ変わった  
県都大分市の玄関口 (大分駅周辺)

- ・国道197号昭和通り交差点の横断歩道橋を撤去したことで、開放的な都市空間を創出するとともに、バリアフリー化を実現しました。
- ・平成17年度に策定した「新たな渋滞対策プログラム」に基づき、小挾間大分線の交差点改良や国道217号佐伯弥生バイパス整備などの対策を進め、17箇所の渋滞軽減を図りました。



土地の高度利用が進む大分駅南地区



国道197号昭和通り交差点

渋滞対策が必要な箇所数 (残箇所)  
H16：22箇所 → H27：5箇所

## 今後の取組

### ●都市の骨格となる道路整備

- 慢性的な交通渋滞の緩和を図る道路整備を推進します。
- 大分市内においては「大分都市圏総合都市交通計画\*20)」に基づき、(都)庄の原佐野線や国道197号(鶴崎拡幅)などの道路整備により、北下郡ガード西交差点や鶴崎駅入口交差点などの渋滞緩和を図ります。  
※大分都市圏交通円滑化対策については、第5章「土木未来プロジェクト」を参照



大分市東部のボトルネック(国道197号:鶴崎橋)



別府市中心市街地のボトルネックと慢性的な渋滞((都)山田関の江線:別府市)

### ●道路空間の再生

- まちの顔となる国道197号や国道500号などにおいて、道路の拡幅や既存の道路敷内における幅員構成の見直し、歩道整備、バリアフリー化、街路灯の統一、電線類の地中化などを実施し、質的向上を推進します。  
※道路空間の再生(リボーン)については、第5章「土木未来プロジェクト」を参照
- 各都市圏内において、快適で安心な道路空間の形成のため、道路の拡幅や自歩道等の新設等により、歩行者等の安全が確保された道路の整備を推進します。



大分を代表する温泉地鉄輪の無電柱化(イメージ)  
(国道500号:別府市)



自歩道等の新設が必要な街路((都)銭淵大宮線:日田市)

### ●都市公園の整備

- 大分スポーツ公園に武道等のスポーツ振興や、広域防災拠点\*21)等の多目的に利用できる屋内スポーツ施設を建設します。  
※屋内スポーツ施設の建設については、第5章「土木未来プロジェクト」を参照
- 緑地とオープンスペースの確保や防災拠点など総合的な利用に供する公園の整備を推進します。



総合的な利用に供する公園の整備(玖珠町総合運動公園:玖珠町)

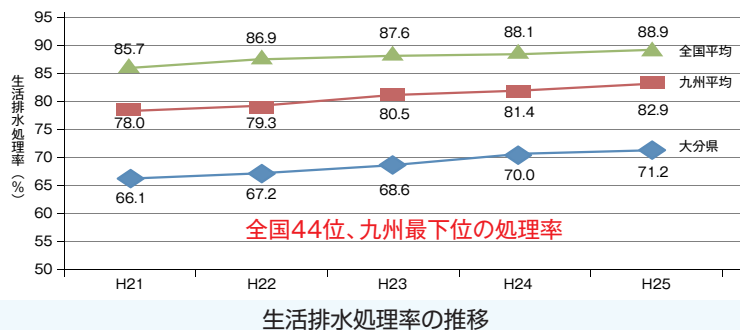
目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
主要渋滞箇所対策を講じる箇所数	—	21箇所	30箇所
1人当たり都市公園面積	13.1m <sup>2</sup> /人	13.2m <sup>2</sup> /人	13.4m <sup>2</sup> /人
都市内の街路整備延長	502km	507km	510km

## 第2節 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

### 2 潤いのある水環境の創出

#### 現状と課題

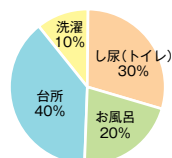
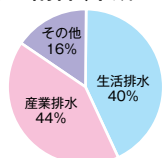
- 本県の生活排水処理率は71.2%（平成25年度末時点）で、全国44位、九州最下位と低く、下水道、農業・漁業集落排水施設や合併処理浄化槽\*22)など、生活排水処理施設整備に対する総合的な取組が必要です。
- 下水道が整備された区域でも、接続せずに汲み取り便槽や合併処理浄化槽のままになっている家庭があります。（接続率84.2%平成25年度末）
- 合併処理浄化槽区域においても、汲み取り便槽や単独浄化槽からの転換が十分には進んでいません。
- 合併処理浄化槽に転換しても、適正な管理がされず、生活排水が適切に処理されていない家庭があります。



#### 川や海をよごしている主な原因は、生活排水

瀬戸内地域の発生源別汚濁負荷(COD)の割合(平成25年度)

浄化前の生活排水の汚れの内訳



工場などの産業廃水の汚れが減少し、代わりに生活排水の汚れが目立ってきました。

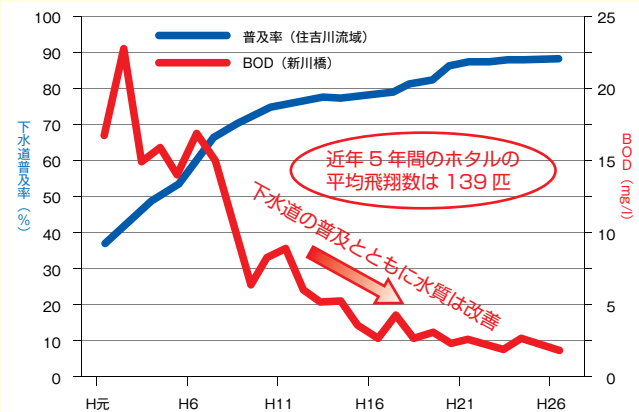
人が生活するために、水を使ったら使った分だけ汚れた水がです。

#### これまでの成果

- 住吉川流域の下水道整備により、水質が改善され、環境保全に関する住民活動が活発になり、ホテルが飛翔するまでになりました。



下水道整備によりきれいになった住吉川



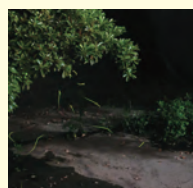
住吉川流域の下水道普及率と水質改善の効果

※水質の指標となるBOD\*23)の値  
平成元年 17.0mg/l → 平成26年 1.8mg/l

#### 住吉川浄化対策推進協議会による住民活動状況



住吉川一斉清掃



ホテルの飛翔



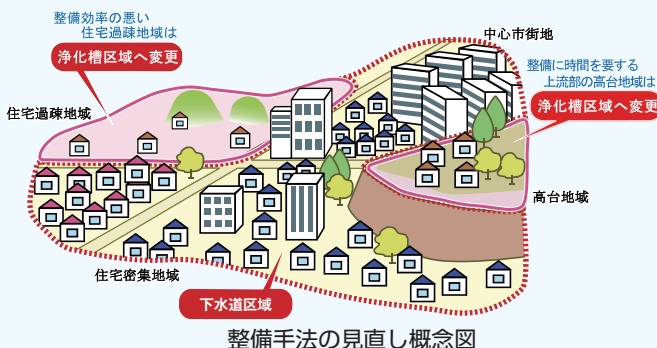
住吉川ウォーキング

## 今後の取組

### ●生活排水処理対策

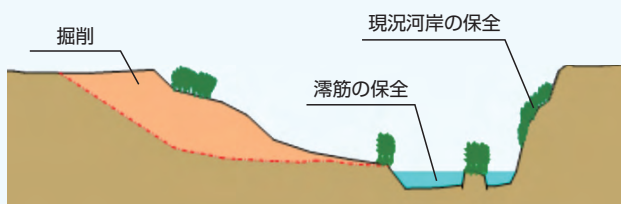
「大分県生活排水処理施設整備構想 2015」に基づき生活排水処理対策を推進します。

- 下水道整備や合併処理浄化槽への転換を推進する市町村に支援を行います。
- 整備に時間を要する下水道区域は浄化槽区域へ変更するなど、市町村に効率的な整備手法への見直しを促します。
- 市町村に対し、計画的な改築や処理場の統合など、効率的な維持管理への技術的な支援などを行います。



### ●良好な河川・海岸環境づくり

- 多様な生物が生息・生育する水辺の保全や復元、人と水とのふれあいの場の創出など、水辺環境の整備に努めます。



生態系の保全を考慮した多自然川づくりのイメージ

- 動植物の生息・生育や良好な水質の維持・向上に必要な河川流量の確保など、ハード・ソフトの両面から水環境の改善に取り組みます。



自然環境を復元する多自然川づくり (武蔵川:国東市)



親水空間の創出 (餅ヶ浜:別府市)



良好な河川環境の創出 (七瀬川:大分市)

### ●住民参加の水環境づくり

- 上流から下流までの流域全体の地域住民が参加する生活排水処理対策等の水環境づくりを推進するため、関係機関が連携して啓発活動などを実施します。



砂ろ過した処理水で栽培するさつまいもを地域住民が植付



大分県生活排水対策マスコット「くりん」



わたしたちの生活に潤いを与える水の循環

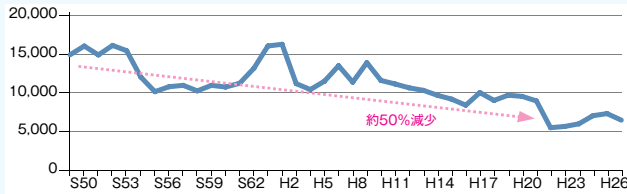
目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
生活排水処理率	72.3%	79.7%	88.2%

## 第2節 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

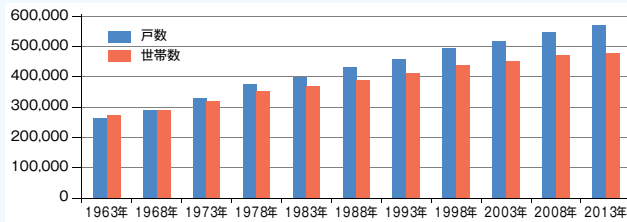
### 3 快適な住まいづくりの推進

#### 現状と課題

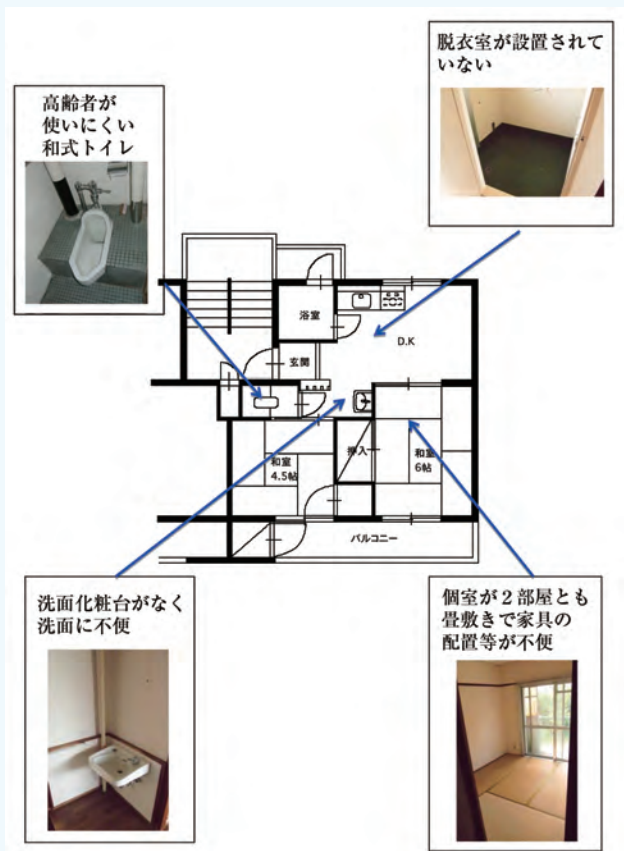
- 県営住宅には、築後40年以上経過した狭小で設備の古い住宅、高齢者や子育て世帯への対応が不十分な住宅が多くあります。
- 人口減少等により住宅着工戸数が減少傾向であり、県内の豊かな森林資源の有効利用や伝統文化の継承に欠かせない木造住宅も減少しています。また、近年住宅のストック戸数が世帯数を大きく上回り、空き家の増加が問題となっています。
- 古い住宅では、高齢化に対応したバリアフリー化や子育て世帯の生活スタイルに合わせた改修が求められています。



新設住宅着工戸数の推移



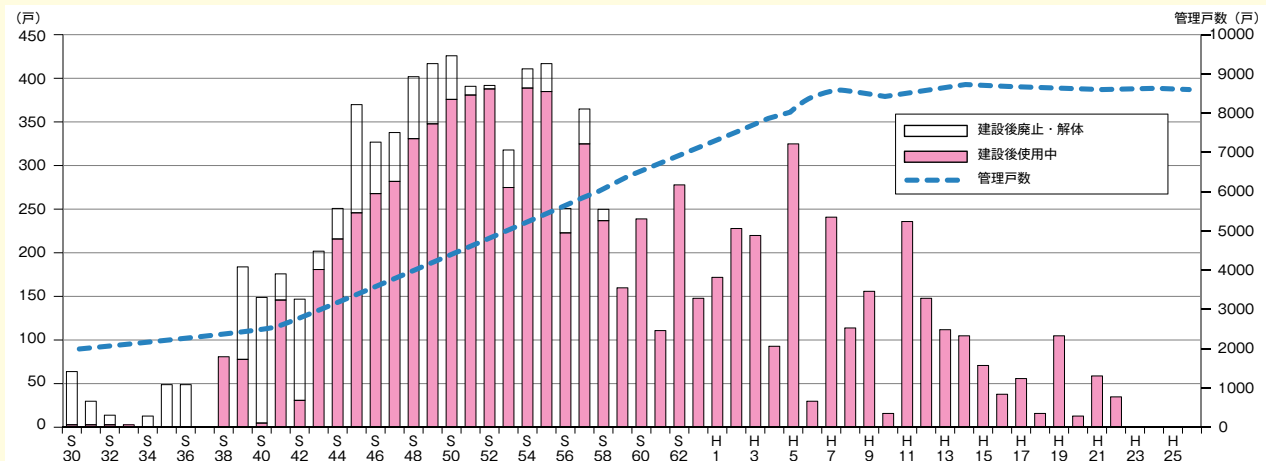
ストック戸数と世帯数の推移



県営住宅の間取り、設備等の不備

#### これまでの成果

県営住宅は都市部の人口増加に伴う住宅不足を背景に、昭和40年代から50年代にかけて多数建設されてきました。平成に入るとこれらのうち老朽化が進んだ住宅が建て替えられ、現在約8,600戸供給されています。



県営住宅の建設戸数の推移

## 今後の取組

### ● 県営住宅の建替・改善

- 建替の際は、エレベーターの設置などユニバーサルデザインに配慮します。
- 昭和40年から50年代にかけて建設された住宅を適正に維持し長寿命化を図るとともに高齢者向けの改善を推進します。



老朽化が進行した県営住宅

共用廊下と  
エレベーター設置



バリアフリー改修後の県営敷戸住宅



スロープ、手摺りを設置し、  
バリアフリー化

住戸内の段差を解消

シャワー設置

高齢者対応浴槽

### ● 公的住宅の適正な管理・運営

- 県と市町村で組織する地域住宅協議会において、公的住宅の今後のありかたを協議し、適正な管理・運営に努めます。

### ● 市町村等と連携した空き家対策

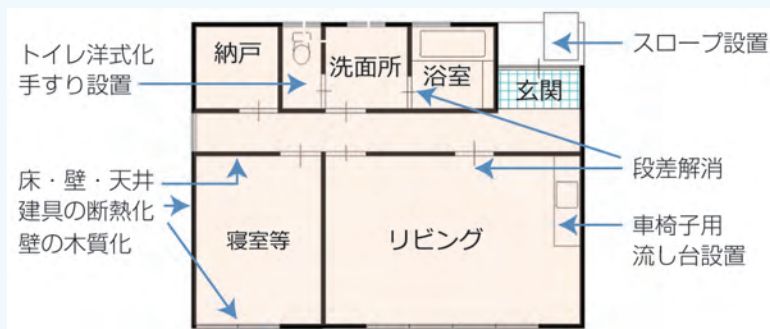
- 市町村等関係機関や建築士等の団体と実態調査や情報交換を行い、空き家の有効活用等の対策について連携して取り組みます。

### ● 子育て世帯・高齢者世帯へのリフォーム支援

- 子育て世帯や3世代が暮らす住宅の子ども部屋やトイレなどのリフォームを支援します。
- 高齢者が居住する住宅のバリアフリー化等を支援します。
- リフォーム関連事業者の育成、消費者への情報提供や相談体制の充実を図ります。

### ● 木造住宅や健康・省エネ住宅の普及、振興

- 木造住宅の振興を図るため、関係団体と組織した協議会により優良な建築物を顕彰するコンクールを開催するとともに、研修会などを通じ建築士の育成にも努めます。
- 「健康・省エネ住宅」や「おおいたエコ建築」の普及を図るため、各種イベントでのパネル展示等による啓発活動に取り組みます。



高齢者にやさしい住まいのリフォームの例



健康で人と地球にやさしい木造住宅

目標指標	現状	目標値	
	平成26年度	平成31年度	平成36年度
県営住宅住戸内バリアフリー整備戸数の割合	31.2%	33%	35%

## 第2節 活力と潤いのある魅力的な地域づくり

# 4 「おんせん県おおいた」のツーリズム支援

### 現状と課題

- 「日本一のおんせん県おおいた<sup>みりよく</sup>の味力も満載」をキャッチフレーズにした観光PRに加え、東九州自動車道の県内全線開通、今後のラグビーW杯や東京オリンピックの開催など、県外からの多くの来訪者が見込まれることから、主要な観光地を結ぶ道路の整備や、観光施策と連携した取組の充実が必要です。
- 本県には恵まれた自然景観が多数ありますが、道路からの眺望が必ずしも良好なものとなっていないことから、支障となる樹木の伐採や景観を損ねる防護柵の更新等をさらに進める必要があります。



日田市「小鹿田焼きの里」へ  
向かう道路が狭小  
宝珠山日田線（日田市大字小野）



景観を損ねる防護柵  
別府一の宮線（由布市狭霧台）



眺望を阻害する樹木  
国道212号（中津市山国川河岸）

### これまでの成果

- 本県では「おんせん県おおいた」をキャッチフレーズとした観光PRや、世界農業遺産<sup>\*24</sup>の認定、日本ジオパーク<sup>\*25</sup>の登録など、観光に関連する取組を積極的に推進しており、ツーリズム振興に寄与する道路整備を行ってきました。



阿蘇くじゅう公園線「芝歩道」

くじゅう連山を周遊する「ぐるっとくじゅう周遊道路」において、景観に配慮した「芝歩道」の整備や、統一した道路標識設置による分かりやすい道路案内を実施

日本風景街道<sup>\*26</sup>に「九州横断の道やまなみハイウェイ」など4ルートを登録。絶景の撮影スポットに「とるば<sup>\*27</sup>」を設置するなど、ツーリズムを支援



国道213号とるば「粟嶋公園駐車場」

平成27年7～9月開催の「おんせん県おおいた」デザインレーションキャンペーン<sup>\*28</sup>（DC）に合わせ、通行や眺望の支障となる樹木等の伐採や、区画線・防護柵等の更新を行うなど、おもてなしのみちづくりを実践



国道213号（豊後高田市堅来）

## 今後の取組

観光客に気持ちよく周遊してもらうため、観光に資する道路において、防護柵更新や景観阻害樹木の撤去等の環境整備や観光部局と連携した取組等によりツーリズムの支援を行います。

### ●主要な観光地を結ぶ道路整備

- 主要な観光地間を周遊するルートの道路整備を進めます。
- 地域道路ネットワークを構成する主要な観光地へのアクセス道路について整備を進めます。



大型車すれ違い困難箇所

### ●良好な景観の保全・再生・創出

- 本県の恵まれた自然景観や文化を観光資源として活かすため、DC\*<sup>28)</sup>を契機に行った主要観光ルートの支障木伐採や施設更新等を、引き続き実施します。
- 日本風景街道の絶景スポットに「とるば」を設置するなど、観光資源を活かす取組を進めます。



景観に配慮した防護柵に更新

### ●おもてなしの道路管理

- 観光地へのアクセスルートにおいて、道路案内標識の英語表記適正化や、消えかけた区画線の更新等を実施し、来県者が目的地まで分かりやすく、安全に運転できる道路環境の創出・維持に進めます。



道路案内標識の英語表記適正化  
(ko→Port)



観光ルートの区画線の更新

### ●観光施策等と連携した取組

- 県が推進する「ツーリズム戦略」などの観光施策等と連携し、魅力ある道路環境の整備等に取り組めます。



自転車が走りやすい路面標示や路肩整備



イメージ図



イメージ図

北浜旅館組合と協働で行う別府港湾海岸緑地の計画の事例